

KSKR

No. 149

2010
Oct.

10

奈良県自閉症協会 NEWS

きずな

The Kizuna

<http://www.eonet.ne.jp/~asn/>

発行人：
関西障害者定期刊行物協会
編集人：奈良県自閉症協会
支部長&事務局：河村舟二
〒639-1005
大和郡山市矢田山町84-10
購読料1部 100円
会員は会費に含まれています。

For Mem.

一九九六年五月一日発行第三種郵便物承認 毎日発行

まだ

まだ自閉症は知られていない。
2010年10月2日と3日ホテルはあといん乃木坂(東京)で都道府県・政令指定都市自閉症協会役員連絡会が行われました。1日目は石井哲夫会長の中央情勢報告と厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部障害福祉課地域移行・障害児支援室寺澤潔司室長補佐及び文部科学省初等中等局特別支援教育課助川隆課長補佐からの行政説明を受けました。2日目は参加者のグループ討議による意見交換会が行われました。奈良県自閉症協会から河村が参加しました。以下今回の連絡会で中央情勢や行政説明意見交換会で見聞きし、気になった問題を報告したいと思います。

まず、乳幼児の健康診断では自閉症の専門家と言われる人やドクターの中で、自閉症の知識が問われるという問題です。こうすれば自閉症が治るとか、効果あるごとくいう自閉症薬などの安易な状況です。産経新聞の2010年4月19日号に掲載され問題となった「発達障害は2歳までに発見して対応すれば治り、3歳までなら5分5分、4歳以上では困難になる」(さいたま市教育相談センター金子保育長)という早期発見早期治療で発達障害が治るなどという間違った俗説が、まことしやかに大学教授や医師および行政関係者

から語られているという現状です。さらに2010年9月19日の産経新聞では1)豊かな言葉がけで目を見て話す(2)あやしと笑わせ(3)「たかい、たかい」などの伝統的な子育てによって、予防・治療指導に画期的な成果をあげられるとする金子保氏の実践などについて「一般に発達障害を予防する子育てとして、目を合わせて話しかけながらあやすことや添い寝をするなどの伝統的な子育てをすることで病状が改善され、子どもより良い成長を促すとも言わ

自閉症の正しい理解を望みます!

れています」と埼玉県知事が金子説を信奉した意見を述べています。日本自閉症協会をはじめ、世界の自閉症の主流的研究の中では、そのようなことはまったく言われていません。このような新聞記事は発達障害の子どもを持つ親たちに、いわれない責任をなすりつけ、混乱を招くもので、県の首長がやみくもに信奉し、それを政策に反映させることなどは許されるべきではないと思います。このことについて日本自閉症協会も抗議をしているようですが、マスコミや行政は自閉症に関する記事や政策を決定する前に一度、日本自閉症協会に声がけや質問をする姿勢が望まれます。小さいときには親子

の関係を稚拙にする。成人期で苦勞する。親に乱暴する。など自閉症が持つ深刻な特性や状況がまだまだ自閉症の専門家と言われる人にも分かっていない現実があります。

石井会長によると自閉症の脳は固定普遍的なものではなく、環境で変わるものであり、よい変化が起きるようにさせることが重要だそうです。ただし、よい変化はいつ、どう起きるかはケースバイケースで、親や支援者が臨床的につかむ必要があります。

早期療育課題のひとつに、乳幼児親子の療育環境の現状の悪さがあります。今日、男女共同参画が叫ばれるなか、保育所の数はおよそ2万2千幼稚園3万で現時点3万人の保育待機児があるのです。この中で自閉症児家庭の生活を担い、適切に自閉症児が入れ、療育機関が運営できているか、国及び地方行政の施策が問われます。

また、幼稚園保育所と小学校の就学についての連携の課題があります。特別支援教育は何のためにあるのか。出来るだけ一般のなかで定型発達を図る教育にするのか、以前のような情緒障害学級として取り出された自閉症教育にするのかが決まっています。さらに、自閉症に対する個別教育はどうするのか。これから主流となるインクルーシブ教育

で自閉症児を教育する環境整備が出来ているかなど課題は多いと思いました。副会長の山崎先生も大学キャンパスの相談に関わっておられますが、渡辺慶一郎(東京大学保健担当)先生によると、学生27人に一人アスペルガーで特に高機能が目立つとの事です。

また教育成果が就労につながるかという課題があります。厚生労働省や労働局が知的障害を想定して行っている施策は自閉症者には通用しません。自閉症者には「人間関係」を支援しないとつまづくのであり、主に人数や物的環境ではないので、支援環境づくりがかなり難しいことがまだまだ認識されていません。雇用者がどうしたらいいのかとまどっており、自閉症の障害特性が原因で、家庭では生活できない状況にある。就労定着しない。学校ではいじめに遭う。愛着障害がある。などなどに

よって自閉症者が大変生きにくい現状にある事が今回の厚労省・文科省の行政説明を聞く中ではまだまだ知られていないように思われました。

さらに石井会長は、「親亡き後は団結するしかないのでは」と言われました。親から独立して地域のケアホーム、施設のなかで子ども達が「いい生活」をするように団体をつくって、集団後見するなど親の出来る支援環境づくりを全国の自閉症協会が中心になって急がなければなりません。

新しい障害者自立支援法(障がい者総合福祉法)に自閉症をどう組み込むかは大きな課題です。本当に地域にケアホームをつくり世話人でもカバーできるのか。脱施設の名のもとに自閉症者を地域に囲い込みをしているだけではないのか。世話人のもとで昼夜ケア出来るか。本人が安定して生活し、親が解放され、

生活の質を追求できる環境づくりに、今、国や地方の施策の方向はあるのかどうか点検しなければなりません。

ご承知の通り、障がい者制度改革推進会議の構成員の中には日本自閉症協会は入れられていません。ただ部会の構成員としてJDD副代表の氏田が入っておられます。このJDDが自閉症を代弁出来るか心配です。JDDネットは申し合わせでは「障害基本法にない狭間の団体が支援法をつくる」ということであり、当初、日本自閉症協会はその団体の中心でありましたが、「自閉症・発達障害支援法」の頭部が無くなり「発達障害支援法」となった時点で自閉症が軽視されてきているように思われます。発達障害支援法で、「何を支援するのか」の視点で考えるとき、たとえばLDとは自閉症の支援の中身は大きく異なるものです。また、自

閉症児者の多くが「本人が言えないから親が代弁する」弱い立場であることから、現実を知らない自閉症支援にはほど遠い形で法律が出来るのではないかと。具体的なアクションプランがないのではないかと。べき論だけに終わるのではないかとという危惧を抱いています。私たちは我が国の障がい者総合福祉法(仮称)や発達障害支援法の中身が英国・米国の「自閉症対策法」に匹敵する自閉症に特化した内容を含む法律であってほしいと願っています

2日目のグループ討議では、4グループに分かれ各グループ白熱した具体的な課題や問題点が討議されました。その内容は後日、いとしご等で公表されると思います。以上今回の連絡会の概要をお伝えします。

河村

資料

○【解答乱麻】明星大教授・高橋史朗 発達障害対応に官民協力(産経ニュース)3年前、文部科学省は『脳科学研究ルネッサンス』という報告書で「発達障害を予防する方法を開発し、発達障害を大幅に減らす」と高らかに宣言した。

今夏、埼玉県が全国に先駆けて発達障害を含む子供の発達支援に取り組むプロジェクトチームを発足させ、保育、教育、医療、福祉の関連部局の課長クラスの職員で構成した4段階に分けた部会で、発達障害児と親支援に県を挙げて取り組むこととなった。

第1段階は発達障害の予防、第2段階は早期発見、第3段階は早期支援、第4段階は教育支援で、有識者ヒアリングを踏まえて9月を目途に課題をまとめ、具体策を検討し、実施する。

ところで、発達障害の予防、早期発見・支援の緊急性について問題提起した4月19日付本欄の拙稿「豊かな言葉がけ見直そう」は大きな反響を呼んだ。発達障害児の生誕前後のリスク要因などの環境要因の重要性を指摘し、改善の成果をあげている澤口俊之氏の学説は学会の定説ではないが、文科省の脳科学の検討会の委員も務め一定の評価を得ている。

また(1)豊かな言葉がけで目を見て話す(2)あやしと笑わせ(3)「たかい、たかい」などの伝統的な子育てによって、予防・治療指導に画期的な成果をあげた金子保氏の実践も注目に値する。

発達障害の原因解明は専門家に委ね、今、行政、親は「児童の最善の利益」のために、何ができ、何をすべきなのかを考え、実行に移すこと

が大切である。

動物は本能によって繁殖の作法と子育ての文化を継承するが、人間は教育(学習)しない限り、子育ての文化は断絶してしまう。元来、「教育」も「学習」も子供の手本となる親の役割を意味する漢字であるが、伝統的子育てを体験し教育できる世代は減少の一途をたどっており、「親になるための学び」「親としての学び」の場を国や地方公共団体がシステムとして提供する必要が生じている。

元上野動物園園長の中川志郎氏によれば、鳥の「親子の絆(きずな)」は第1に聴覚的に結ばれ、第2に視覚的に結ばれるという。人間の「親子の絆」が結ばれるためにも、前述した「豊かな言葉がけで目を見て話す」という聴覚と視覚からの働きかけが必要不可欠といえる。

脳生理学の権威で元東大教授の時(とき)実(ぎね)利彦氏は、自

閉症の治療方法として(1)抱きしめる(2)突き放す(3)見つめるの3点を挙げた。これは日本の子育ての伝統とみごとに一致する。

埼玉県では母子健康手帳交付時から3歳までの親に対して、情緒の発達を促す伝統的な子育ての普及による発達障害の予防などを検討している。このプロジェクトは国を挙げて取り組むべき緊急を要する国家的事業である。従来の縦割り行政の悪弊を打破し、「発達障害課」の新設など行政の責任の所在を明確にした上で、官民一体となって連携協力する新たな仕組みが必要である。埼玉県の成果が突破口となって全国に広がることを期待し、全力で応援したい。
◇ たかはし・しろう 元埼玉県教育委員長。明星大大学院教育学専攻主任、一般財団法人親学推進協会理事長。(2010年9月19日産経新聞より)

「星の国から孫ふたり」に 上映決定

文部科学省選定作品、厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財、助成：文化芸術振興費補助金、[社]企業メセナ協議会認定
2009年度作品 / 35mm, 16mm / 95分
あいち国際女性映画祭2009正式出品(プレミア上映)

日程 平成22年12月26日(日)
場所 奈良県文化会館小ホール
午後2時30分より上映予定
詳しい開場時間や申し込み等は11月の絆に掲載します。

一足早く京都の上映会で、映画を観てきました。

「星の国から孫ふたり」のホームページで監修者のコメントにもありますように、期待通り、子どもに関わるすべての方に、観ていただきたい映画でした。

お父さんお母さん、学校の先生や自閉症児・者を支援している方はもちろん、自閉症を知らない方達にも、理解してもらえる・知ってもらえる良い機会になると思いますので、冬休み中の年末が近い日程で、お忙しいと思いますが、映画上映会参加への呼びかけをよろしく願います。

「奈良県自閉症協会主催作品展」スタッフメンバー募集中

奈良県自閉症協会主催の作品展を年度末の平成23年3月末に奈良県文化会館・展示室で開催予定です。初めての試みで、まだ白紙の状態です。そこで作品展の企画・運営の仲間を募集しています。

「展示に携わったことがあるので、アドバイスできるよ!」「芸術には疎いけどおもしろそうなのでやってみたいな」「家で眠っている子どもの作品をみんなにみてもらいたいな」等々、作品展に興味を持たれた方、また作品展のアドバイスが出来る知り合いの方がおられる等・情報を、光野まで、連絡を下さい。

秋から、少しずつ作品展に向けて活動を始めたいと思います。

光野 連絡先 TEL & FAX (0742) 71-4088
アドレス nahi-kon@m3.kcn.ne.jp

展示用作品は年が変わった頃より募集します・

お子さんの絵画・書道・陶芸等々作品を大切に家庭で保管しておいてくださいね。

平成22年度 善意銀行助成金による 自閉症児者と共に楽しむスポーツ・体操教室
 主催 特定非営利活動法人 奈良県自閉症協会

スポーツ教室と ふれあいフレッシュ体操のご案内

障がいのある人も ない人も
 自閉症の人もそうでない人も
 みんなで過ごす ひとときを!!

フライングディスクや サーキット運動など 楽しみながらのスポーツ教室と イラスト:渡邊力斗くん
 音楽に合わせて体を動かしたりの 盛りだくさんのプログラムを用意しています。

*11月27日の場所が変更 : 奈良県心身障害者福祉センター 体育館

日時	プログラム	場 所
① 8月28日(土)	9:30(受付)	県営福祉パーク 多目的運動ホール (冷暖房あり)
② 9月25日(土)		
③ 10月31日(日)	10:00~ 10:50 スポーツ教室	講師 櫻井 祥二
④ 11月27日(土)	11:00 ~ 11:50	11月のみ 田原本福祉センター
⑤ 1月16日(日)	ふれあいフレッシュ体操	講師 木村 由子
⑥ 2月6日(日)		

申込み・問い合わせ先 TEL・FAX 0744-33-5851

E-mail hajime.1216@nike.eonet.ne.jp 櫻井

*参加希望の方は 必ず申し込みをお願いいたします。

途中から参加希望される方は、人数の都合によりお受けできない時がありますので、ご了承ください。

*年齢は問いません。

*講師・会場の都合により、日時・場所の変更もあります事をご了承ください。

*参加の場合は、必ず付き添いの方をお願いいたします。

*兄弟参加もOKですが、保護者の責任の下、よろしく願いいたします。

FAX (電話でも可) 0744-33-5851 メール hajime.1216@nike.eonet.ne.jp

スポーツ教室とふれあいフレッシュ体操申し込みいたします。

参加者氏名 _____ 年齢 _____ 所属 _____

〒

住所 _____ TEL _____

*Oをつけて下さい。

一緒に参加される方 家族(父・母・兄弟・その他) ヘルパーさん

*参加される方は 運動しやすい服装でお願いいたします。

第2回

講座 アンケート 集計

■本日の内容はいかがでしたでしょうか？興味深かった点、理解できなかった点があればお書きください。

(教員)

- ・〇×の使い方、カードの使い方など
- ・実践の内容が聞いて良かった。
- ・内容が盛りだくさんで大変参考になりました。
- ・豊富な実践例で、とてもわかりやすく参考になりました。また辰巳先生の教材集をじっくり見させていたきたいなと思いました。
- ・どの話もとても興味深かったですが、今見ている子供さんをイメージして、その子たちが課題としている「スケジュール」(システムの理解と活動)と「自己理解」の部分は、こんなん作ってみようか、やってみようかと色々聞かせていただきました

た。

・先生方と一緒にお仕事したいのに機会がなく残念に思っていましたので、このようにお話を一度聞いて良かったです。

・短い時間の中でたくさんの内容だったのもっとゆっくり聞けたらうれしいなと感じました。

(福祉関係者)

- ・スケジュールに花丸をつける気持ち。大切だと思いました。
- ・この数年教育の現場での進化に感心いたします。その分医療従事者、社会での理解も一段と深めていかなければと感じています。
- ・支援は続けていかなければならない大切さ。
- ・障害者と特性の理解の大切さ
- (保護者)
- ・写真、絵を利用して子供状態を把握しながらどういう風にしていったらいいのかのヒントをいただけたと

思っています。写真、絵、言葉の組み合わせ方。

- ・見通しを持たせる大切さを教えていただきました。
- ・とてもわかりやすくうなずくことが多かった。
- ・内容が盛りだくさんでもう少し時間をかけてゆっくり深く聞きたかったです。
- ・具体的で実践的な内容ですぐにでも使えそうなものがいっぱいあり、とてもヒントを多くいただきました。
- ・個人的に色々工夫の相談をしたい気持ちになりました。
- ・指導する側の勉強の必要性を考えさせられました。
- ・単スケジュールではなく、見通しを持たせることが大事ということが心に残りました。うちの子も自分の意志を伝えことが難しいので発信できるように工夫していきたいです。

・画像が多かったので、説明がわかりやすかった(辰巳先生)

・いろいろな子の例をあげての実践例が聞いて良かった。聞きやすい口調でした。レジメが見えにくかったのが残念です。(長矢先生)

・支援や手立てにより、「出来ることが少しずつ増えてくると、自閉症という障害特性をついつい忘れてします。」すごくよくわかります。常に意識しておかないといけないと思いました。

・子供の受けとり方が(見方・考え方)自分が受けとったり、自分が気をつけている所と違う場合が多々あるんだと思いました。

・見通しを持たせるための方法が色々で紹介されており興味深かったです。

・小学校の子供が書いたソーシャルストーリーの吹き出しがリアルで実践的で良かったです。

・教員が聞いても、保護者が聞いても受け入れられる内容だったと思います。

(その他)

・具体例が多く、すぐ実践してみたい。しなければいけないことがわかりました。

・トラブル後の興奮がおさまってやってみようと思うが、時間を持ちにくいのが悩みです。

・発達障害の個別的な対応のあり方の基準をわかりやすく講義くださいました。人の発達過程のいずれかの時期に誰もが体験してきた過程であろうかと認識をあらたにしています。(おそらく赤ん坊～幼児)いつも温かく肯定的な言葉で、そして認めて誉めてあげ生きる事への方法を

身につけ、楽しい人生を構築できるように指導していけたらと思いました。(教育関係)

■実践でいかすことが出来るのですか？またそれはどのようなことですか？

(教員)

・聞く姿勢を持つこと。心に余裕を持つこと。

・障害特性を理解して関わること。

・見通しを持たせることの大切さを改めて感じました。

・お話を聞きながら担当している子どものことを思い浮かべ、あれもこれもやってみたいと描いていました。スケジュールの提示ではなく見通しを伝えることの大切さを気付くことが出来ました。

・予定カードなど本人が認識しやすいものを探っていきたいです。

・根気強く取り組むこと。中途半端な取り組みはしないこと。

・特に後半はいかせそうです

(福祉関係者)

・振りかえりを(A・・・B・・・)

で選ばせること。

- ・養護学校との連携などもっとついでいればスムーズに対応しているのでは・・・と思う場面が多々あります。
- ・見通しを立たせる大切さを考えながら実践していきたいです。

(保護者)

- ・生活の流れを少しずつ写真、絵、言葉で順に理解できるように表にしてみようかと思いました。
- ・長矢先生の100言うことを聞いてあげて1つ2つくらいこちらの言うことを聞いてもらうと言うことを以前聞いたことがあります。それをあれ以来実践してきたつもりです。実践した結果信頼関係が築けました。
- ・今学校で指導していただいていることにつながりそうです。私の気付かないところで子どものストレスになってしまっているところ・・・あるかもしれないと気付かされまし

た。(指かみがひどいので)

- ・みてわかる工夫。見えない物を理解させるアイテム。
- ・辰巳先生がお話くださった個別課題が興味深かったです。参考にさせていただきたいです。環境を整えて自立を促すという長矢先生のお話が参考になりそうです。家の中でも色々考えてやりたいです。
- ・家庭で生かせる工夫がたくさんあって良かったです。見通しを持たせる方法が数多く紹介されていたので実践していきたいと思います。
- ・マグネット、磁力の強い物が良い感じというところ。
- ・多数決で決めるときのカードを使つての視覚支援。
- ・今の体調(元気、疲れた、最悪)良くできた、できた、少し難しかった、もっと練習する。
- ・過ぎた日を×ではなく花丸で返していく大切さ。日記。

・最近、先生にかなりの部分お任せになっているので、今日の講演を聴いてやるぞ～という力がわいてきました。具体的な内容だったので取り入れて工夫していきたいと思いました。(声の大きさは数字のメーターではあまりうまくいかなかったので、好きなキャラクターを用いてやってみたいと思いました)

- ・声かけの仕方、自分の心の置き方。
- ・スケジュールの示し方や感覚のかたより(のどのかわきがわかりにくい)による飲料の意識的な飲ませ方。(その他)

- ・自己選択の話。集団を巻き込んでいく。合い言葉作戦。
- ・自閉のお子さんの個にせまればいくらかでも支援できます。教員がすることは授業です。授業作り、授業の改善が二の次になっているような感じがします。どんな授業、活動でもそういった子に教員が一人つくとい

うことが支援になってしまっているようにな・・・。いまだに昔ながらの雰囲気やノリを重視した知的の子へのアプローチをそのままスペクトラムの子にしてしまっていると思います。スペクトラムの子などの特性を知ったうえで、どんな授業を展開するか

が気になるところです。

- ・社会教育の一環として常に基盤にしたいものです。またそのつもりです。(教育関係)

■今後どのようなテーマの勉強会に参加されたいと思いますか？

(教員)

- ・子供の実態を色々知ってみたいです。みんなで考える機会にしたいです。
- ・常同行動、パニックなどの対応について勉強したいです。(なかなか実践例が出しにくいとは思いますが)

・今日のような具合的な取り組みを聞かせていただきたいです。

(福祉関係者)

- ・ご家庭での療育環境を教えてください。
- ・教育現場から巣立った後の現場の状況。

(保護者)

- ・動作を教えるなどの行動に対してどう言葉をかけて教えていったらいかなど、具体的な事を勉強できればと思っています。
- ・問題行動への対応方法
- ・思春期、体の成長などこれからのことなので気をつけるべき点、本人を傷つけないように心構えを教えてください。
- ・今回のように今実践されている先生方にお話ししていただく機会がまたあればと思います。
- ・専門性の高い内容より今回のように生活に直接関わる話が聞きたいで

す。先輩お母さんとの座談会的なものにも参加してみたい。

- ・具体的な実践例を色んな形で教えていただけたらと思います。
- ・地域の学校の実践例、特に奈良県の。
- ・社会性UP

(その他)

- ・自閉症の本人がどう感じどう思っているのか聞いてみたいと思います。私たちの目線からみれば否定的にしか見えませんが、やっぱり理由があると思います。「なぜ？」を本人の目で感じてみたいです。難しいのでしょうけど。
- ・成人してしまつてからの対応。今まで間違つた対応に慣れてしまつていることの改善であつたり、保護の理解につなげること。
- ・ソーシャルスキルの実践
- ・教育関係者の実践に基づく講義は明日からの教育現場に即効果を大事

なものです。一人のわずかな経験の中だけで指導法をつかみ取る事が出来るのは非常に部分的でありますので、共有することの出来るこういった機会は本当に大切だと考えます。先生方にも紹介したいと思ひますし、参加したいと思ひています。

成人部からのお知らせ

1. 10月22日(金) 10:00より大和郡山市福祉会館会議室で成人部会を行います。参加の方は連絡網上の役員まで

2. 11月21日(日) 10:00から王寺町菩提キャンプ場で野外バーベキューで簡単な調理などをします。療育部さんも参加OKです。詳しくは11月絆でお知らせします。

療育部からの感想

10月1日(金)「保護者のためのストレスマネジメント」に参加させていただきました。

「動作法」を学ぶ事は、はじめてでしたので楽しみにしていました。

午前の部では、動作法が行われるようになった経緯、次に、援助者の適切なアプローチの

仕方が良い伴う体験になり、それが生活体験につながっていくというお話をうかがい、

いかにアプローチの仕方が大事かという事を実感しました。

午後の部では、実践指導していただきました。二人組になり、ひとりはおぐらをかき、前屈姿勢をとりもうひとりは、背中を触り体のバランスを確認します。左右のバランスが悪い所があれば、ゆっくりほぐすようにさすります。ゆっくりとした時間

です。体がほぐれていくのがわかります。

その他に、腕を伸ばす動作、体を横にひねる動作などを体験させていただきました。

時間があれば、もっと教えていただきたいと思ひました。

今回、施設の先生方も参加されており、早速次の日から、動作法を取り入れていきたいとおっしゃっていました。

私は、子供が大きくなり、触れ合う機会が少なくなりましたが、体の動きの不自然さを以前から感じる所がありましたので、触れてほぐしてあげたいと思ひました。

今回、参加させていただき、とても有意義な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございました。

(参加者)

障がい者政策プロジェクトチーム

2010年8月23日 政調役員会にて設置確認

主管：厚生労働

共管：内閣、総務、文部科学、国土交通、経済産業、外務、法務

子ども・男女共同

【役員構成】

座長： 谷 博之

座長代理： 石毛 鏡子

副座長： 中根 康浩 (厚生労働)

石毛 鏡子 (内閣)

稲見 哲男 (総務)

大島 九州男 (文部科学)

村井 宗明 (国土交通)

山本 剛正 (経済産業)

大石 尚子 (外務)

阿知波 吉信 (法務)

神本 美恵子 (子ども・男女共同参画調査会)

事務局長： 中根 康浩

事務局次長： 小宮山 泰子

金子 恵美 相原 久美子

【PT設置趣旨】

今後、国会で審議が予定される障害者権利条約(外務)、障害者基本法改正案(内閣)、障害者差別禁止法案(内閣)、障がい者総合福祉法案(厚生労働)および障害者虐待防止法案(厚生労働)等への対応を含め、障がい者制度改革について民主党の考え方をとりまとめ、政府・国会へ提言する。

平成22年度独立行政法人福祉医療機構助成事業「自閉症児者の事業」

主催 特定非営利活動法人 奈良県自閉症協会

成人支援者の為の勉強会ご案内

早期発見、早期療育の大切さは 認知されてきましたが、自閉症スペクトラムの人の支援は生涯に渡って継続が必要です。昨年度に引き続き、成人の方や成人へ移行年齢の方の支援をされている方を対象に セミナーを計画いたしました。質の高い、きめ細やかな支援を展開できるよう、情報提供をはじめ仲間作り、幅広い様々な支援ニーズに連携して対応しながら 支援の成果蓄積をめざしたいと思っております。学校の先生や福祉関係者、支援関係の方のご参加をお待ちしております。

日時 9/7(火)・10/20(水)・11/17(水)・12/21(火)・1/18(火)

午後 6:30~8:30

場所 奈良商工会議所 A 会議室 <http://www.nara-cci.or.jp/access/index.html>

奈良市登大路町36-2 *近鉄奈良駅 1番出口 すぐ

内容・講師

- ① 9/7(火) 自閉症の特性と支援の原則
- ② 10/20(水) 評価と個別プログラム
- ③ 11/17(水) 施設入所の取り組み
大中りよこ(すくよか北棟 病棟長)
- ④ 12/21(火) 「就労での取り組み」
高橋亜希子(アクトおおさか)
- ⑤ 1/18(火) 行動マネジメント、Q & A
中山清司

講師

中山清司先生

(北摂杉の子会スーパーバイザー兼工房あすく施設長) 他

成人支援実践者の方

参加費 無料

定員 50名

参加申込み FAX 又は メールにて 申込み締め切り 10月31日

参加対象者 中学生以上の支援をされている方で 原則全5回とも参加できる方

TEL・FAX 0742-36-0205 asj_nara_oomiya@yahoo.co.jp

ふりがな		性別 年齢	会員の有無
氏名		女・男 ()	会員 非会員

該当するところにチェックと記入をお願いします。

☆支援している人の(対象)年齢()歳 ☆支援を初めて()年目

構造化支援をして()年目 支援について悩んでいる。 奈良県自閉症協会講演会に来たことがある。 奈良県自閉症協会活動ボランティアの経験あり

参加希望動機【 】

発行人：関西障害者定期刊行物協会
住 所：〒543-0015
 大阪市天王寺区真田山2-2 東興ビル4F
編集人：河村 舟二
定 価：100円